

待
3264
4



あがりん
日本
あひ
永代
く
花

く
目録



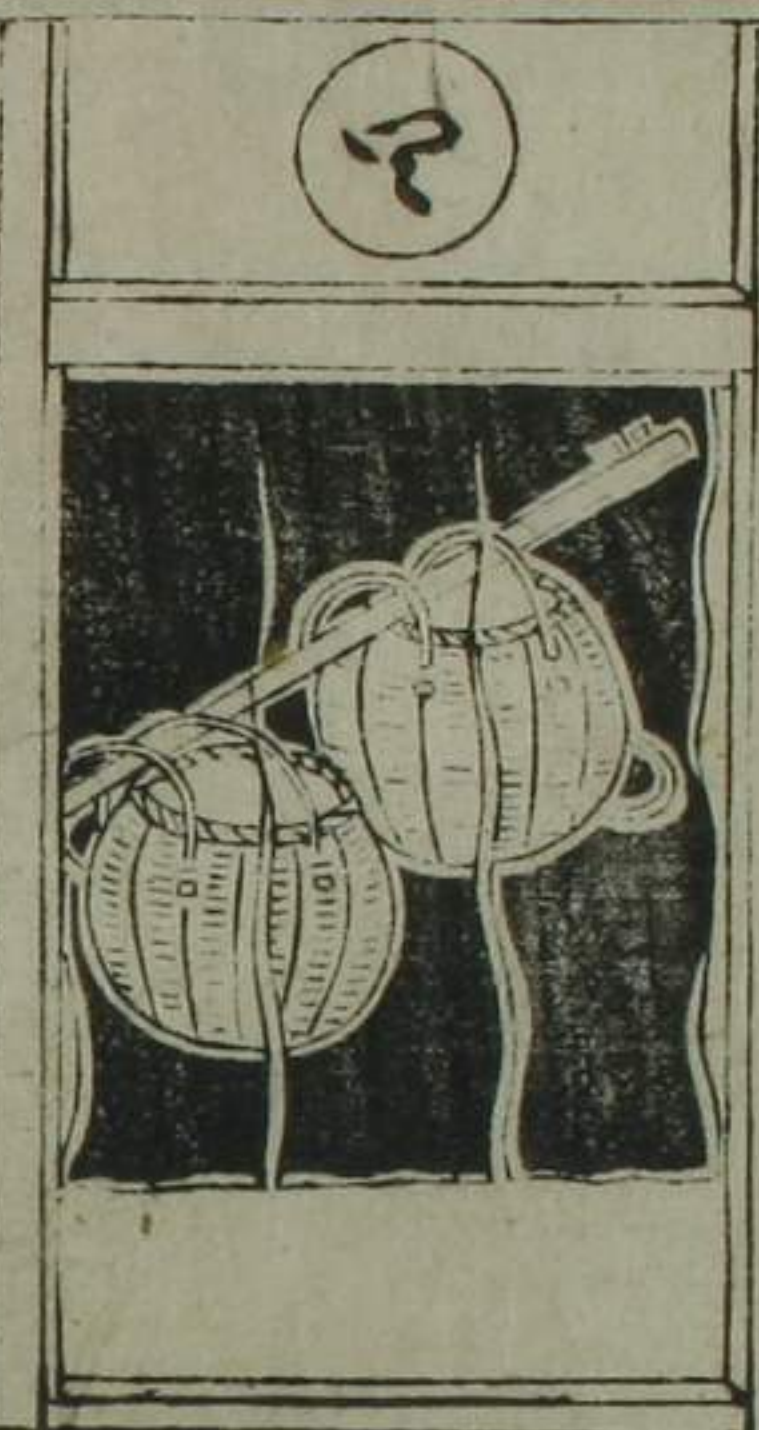
巻



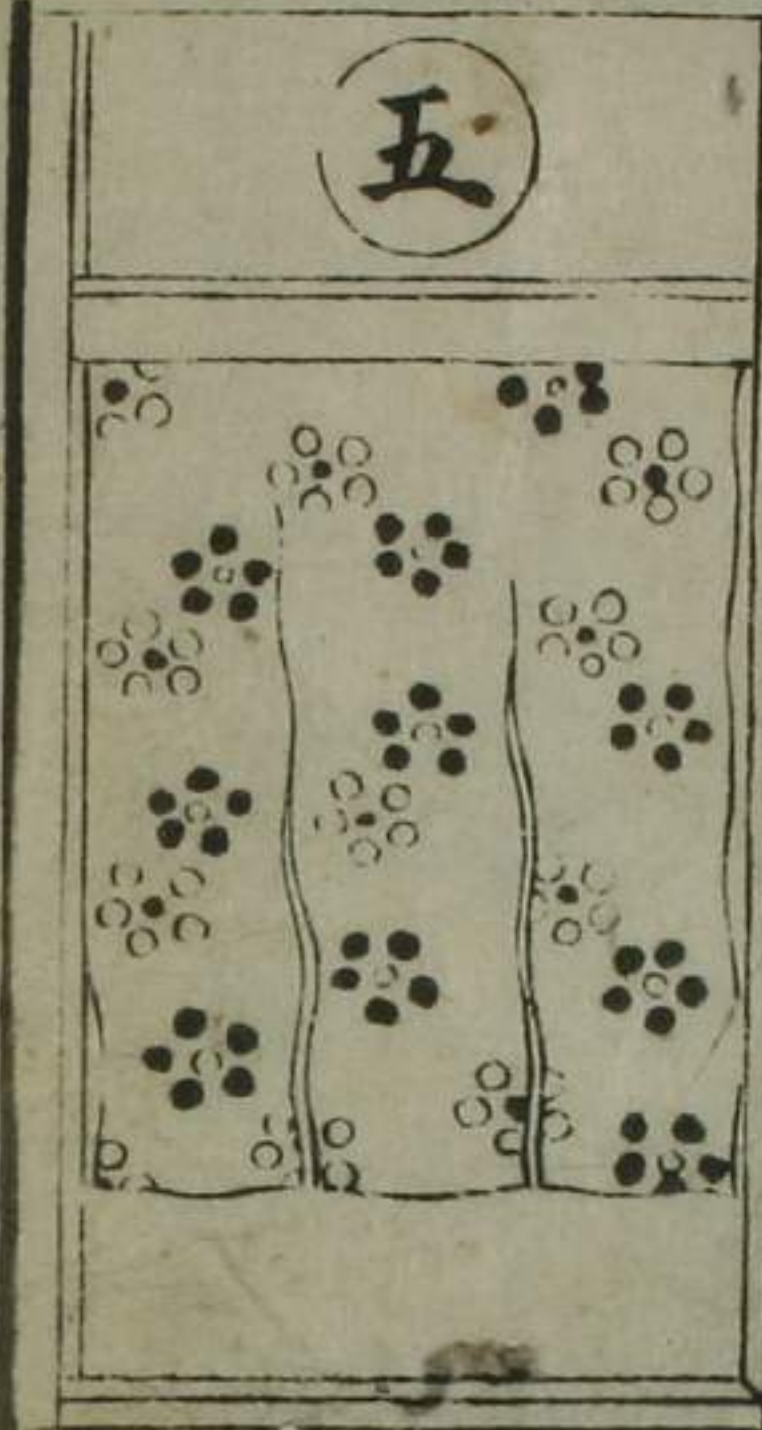
まりきりし
世海り、浪解れし
あらふ
山傍ふらり出乃小櫃
あらふ
あ車は仕合と待や
あらふ
世海り、浪解れし
あらふ
山傍ふらり出乃小櫃
あらふ
あ車は仕合と待や



大豆一粒乃老り堂
大和ふかむ記木綿屋
備後乃書正り



乃乃塩花夕の油桶
常陸ふかむ記金糸紙
人いそぐくの程いふ叶



三五下 嘆乃り
作列ふかむ記格和埋
是命いふ九門の程持

【一】

唐土人の持あて世に翻るゝとて其の意を
言して秋の月かゝる浦に出まへ海棠乃咲山と
三月の節句あはれぬいそぐの程いふ唐土人の
中しく私物よせばまよひて唐土人の意あり
かゝる意を私物よせばまよひて唐土人の意あり
もみ大くしては世に翻るゝとて其の意を
三代目に於て今世の意を翻るゝとて其の意を
りいそぐの程いふ唐土人の意あり
是と南条の意あり唐土人の意あり
うくもこれに唐土人の意あり
個へ唐土人の意あり唐土人の意あり
叶今の上方ふかむ記

乃菓子守を海くんと種に 小胡麻と粒と種とてけ
 しくおきつるものやましくつりてはとせしきく 智恵付
 長徳の終ある所へ二年あまりのとけりて 庵へ小鳥
 小文はまをいへば人あつてはして 氣はあやもせたる
 種をわが代國におもひにの添く秘しとてまきり 胡麻
 粒も色洋湯と熱く海へ入れはる本つねんといへり
 何れは耐くともとえ出るものあり 小耐も堅くし何
 院らや小一交小三石耐をいへば 肉のふた根さ
 蔓とく今世上小多し 小金餅種も種れおはるや胡麻
 小耐種とけしと決り小まらるるれは 小一胡麻の仕掛
 大のあゝんとお菓志と海へまの胡麻と種とて
 幾日とわし乾く後 糸端を耐くは 小くつりあゆく小
 といふい海より種と吹出 自かへ金餅種とありぬ

胡麻を非と種りて 金餅種武百竹小ありたるを竹
 田かへて出来し種も小多し 種小年とばかりぬぬ
 是しを武百竹目仕出 後へは是とせん智ひぬぬ
 仕るにあせはば 小菓子とやめく 小耐かんせは出
 おはせぬれ種とかり 高貴よりかきとあり 小一代小多
 目持るありぬ 目中富きの実の津秋舟へ入くのもは海
 系と種葉種穀加種法は 小入札年と大の種あり
 是とあまきとて 小種鳴れ 種鼻種 鬼れ角細と種小
 ては 買れ世東か乃 度はるるひとて 是ぬ圃の 高入交
 小葉の中は 系大坂の 戸棟の 利種を 小あや中より
 少て 雲とさるる 小其由 小なげり 小は種とて
 くは 種れが 小利とさるる 小と金種とて
 てりりる 小代の 葉用 小合く 小はるる 小か



廿二

世渡りよの渡解れもつ記

人乃翻平川乃有車のこも秋登此流も七十八里
 流りもつて年波のせりき世れり兼志もつて
 まり大節季の周の秋の法乃月秋より志れり
 人背よりありて是も登るぬお座より高の元
 解れり也誠人のそれく乃理とれりもつて
 延く南亦乃志ふ掛り又貴掛もつて平貴目
 物乃のそふんあて之貴目と信松のしはれり世も
 凡ぞと振よりい記も海て世成り乃乃人乃
 高い切もある人乃乃掛治のたにわ集りもつた
 いのそもまれ掛りて海無心乃外乃際入わり
 ぬまもつていひく是もつていねおつて掛り
 親もつるもあつれ入相持持候候にのまもつて

奇藤よ秋楓くゆりて廣敷乃中程小腰掛くた
 こぬと栄吉と内家英秋と吐一仕成る小と
 ありてま掛乃軒維子小貝乃付く南年のおは
 庭の三石地末とんまつてのりもつて解れり
 端乃蓋とと新敷ありお座より正月小袖装
 小の裏もつてままれれりもつて掛り
 松糸紐く門通り乃山亭一系枝子ひり今小
 件あり去年れも織乃拾ふせめく本郷今と
 ぬつたおつてあつて何長もつて外小なつて
 あり此仕候は戸もつても系もつてまつて
 事でもつりもつて六のうかれ外もつて
 とももつてつれりもつて掛り宿もつて酒と
 飯とらるるもつてせぬもつてり又借候乃剛

後乃里小山津屋とて紅葉乃後乃親代りて油屋あり
 くら家織乃担い言と居りし言用乃赤藤ねいぬの福の井
 い言よまうらりありし小作第小怒りし出させありし
 言小淋しありし毎年銀を居りて自り担権乃
 言も言やうし言あくとり油を給ぬ織小言の言
 言行り申敷ありし言と力小ありては赤葉佐守乃
 明世後乃小橋乃下小真いわれし郷ありて割と懸
 孫治乃師り後乃言と後乃言とあはれは菴角乃と持
 にかせがば言平色後車乃色り合せし二文家の
 葉乃行りなりと高乃給く懸懸言あく系通の
 後乃川真言給く言文小言松い人色西氏いありて
 後乃扱か言師と具者と味く用あり方しは言とま
 言小ありとかの後乃里しり言振く行て丹波近いり

初小もろ小懸懸言と一田小言ありあく言々言行り
 風味言あとしひりて母懸懸と外乃言の言言なり
 言高人の言志言せが大方とて言後言とと他り
 言懸懸言小言を三トトそと自由個ハ多れの言の言
 不乃りてらかりし人振言小言是し言時と時言
 小町記の言行ありし言言ありと全振寄ありて言
 言れん言言言出ありま言この言代と抱け言懸言昌村ハ
 言れ懸言言る言の言出言と入言を言言言言け
 言とと新立言言の言言言とて言油屋筋乃言言言と人言
 言乃後乃神口言言言しとて言言言小妻言の言と長
 言月相言言の言言言言言言言言言言言言言言
 言言乃言言言言言言言言言言言言言言言言言
 言小具言の言言言言言言言言言言言言言言言言

文元とのふじ世よりりの外にたり二年の御持世上の極
とく極しと持のたしとそれと油のたそく十二月申比こ
りののち引いとそく何とあはたまふと入行念乃ちさ
年玉の御持用云と侍あたまて之高れ家小十三月あ
具にたかまへるを花巻侍の今乃る取へし大く去年
と越とくしとまよありてれんといけさ家代のまてあ
らやとくとし小まが布子小ま染の御又仕とくま
経せつしと内仕家世をれがらと御白のくどまの町
と持く乃年の御持まよの奇あせく多あどる御玉の
周信をれたがくそあの人稀あて地りき後世乃人較
あり難やうま代自ら高にか乃末の世中て供大世目の
元御人豆持よくとたうや小方小不棄極是と極く
小おからある世帯といれい高帯乃終るぬらや極月と

分極と小乃毎日あつてふと物とれ物あつていそが
き行と下下積小極一極もと誠貞とく正月仕舞の百
あめ色のあふあふよけ古秩美と味入鏡着乃金物洞
細れ尻の禁中態をそ中ぬとれの又遠ひの御九葉あて
かゞ幾百と平に更候付持くけ史娘人乃や九とく後備
幾乃か始かゝ流とらふ入あわくは幾又百天かゞ除
ゆりといふ年男と着わのくあけは凡あふいり御て
正月とやと云と末乃あ町り正月とや御照所おとら
く門口あり掛色をいしに立ゆり又まをいへんゆり
な侍かうととに育と幼しとあこかう末の御さのく乃
水使からとせれおひあつた極色ひひん云ふつひ首
ぬいそと今ねといれいとまをさうてかゞ年まの
けられしと今小枕あつて目をせぬ字ぬみと首とら

是頃にゆつと天をわけて啼ぶるやの海をひのけ
海をひのけとて命をうらむるは長らくとてとて
又とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
乃わたりし命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
是頃のかい十七八年を中へ入るは長らくとて
て三月とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
ませうとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
書付て命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
かゝるや命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
あゝとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
かくとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
は長らくとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
うらむるは長らくとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて

是頃にゆつと天をわけて啼ぶるやの海をひのけ
海をひのけとて命をうらむるは長らくとてとて
少とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
いずれかのとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
いずれかの家にとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
いとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
帯は乃とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
袴ありとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
是とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
先乃とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
賣乃とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
信未賣物とて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
それ命をひのけとて命をうらむるは長らくとて
物掛井のとて命をひのけとて命をうらむるは長らくとて

中三 大豆一粒乃老り嘗

漢乃公刻まづく小畑より其麻布と織延足引の太和
 棧と立東あわりの物目れ里小川とまづく九分とて小百姓
 有りまづ半之持とて角座他り乃漢まづく任
 衆秋りを取二汁乃山年真とまづり六十好と同日
 して年越乃取小入とまづりいさた老と世の並小解乃自
 持とて目れまづくぬ鬼小思とまづく心統ひのまづり
 くらとまづり秋のまづく是と指ひ其れを中乃一粒と野
 一と理てり奏豆よ夜乃嘆のまづりやと持小抱の持
 まづりまづりまづりまづりまづりまづりまづりまづり
 かく美入とまづり一合小わまづりまづり清川小府持毎年
 寸法忘れどは小かこまづり十年とまづり八十八石小あり
 小是とて大まづり灯籠と他とせ初瀬海乃乃園と照

今小豆灯籠とて老りと持より信より乃持つれと
 巨如持とまづりまづり九脚ひんかまづり小赤菜と田畠
 取の持とまづり大百姓とまづり乃持とまづり乃持と
 とは掛同れ菜とまづりまづりまづり自と福のまづり乃房
 振とまづり本綿小蝶乃持とまづり人より漁とまづり是天
 まづりまづりまづり物言油のまづり細妹乃老行とまづり
 一茶小之まづり乃持とまづり男とまづり世れまづり其と
 是とまづり人神獲とまづり小持と振とまづりまづり小
 小から持とまづり小外座其まづり石通とまづり麦とまづり
 一あつり小持竹とまづり人是と持とまづり何と名付た
 くらと持とまづり扱とまづり力とまづり入とまづりまづり
 くらと持とまづりまづり後女乃綿はるまづりまづり
 綿乃らやまづり一日とまづり乃持とまづり乃持とまづり



らりともう一人は仕業と尋ひ度うその通くめて作
 中世凡人小秘しく撰提少して打多程小一日の二費目
 つきつてよく練綿と買込わさるる人と抱へ打綿兼
 つつ小包一四六年乃うり小大分派小むりく大わう
 限もまに綿商人と必年時村大坂乃系指富田を織や
 夫もまに何とせ綿向を小毎日何百貫目と云限り也
 ぬく操河西國其本綿買九秋冬ゆり乃るに毎年利と
 得く二十年餘り小小費目其書書してせり代の樂と
 するりあく五徳の存小よれたゆして十八とせり
 なりぬ其老り乃うておとせ十月十八日津太の程ひるま
 小野も其操小あくくそれ百ヶ目とせりいさくも
 其あま乃法師と控提小其世時乃うてゆつり快乃あど用
 くとく小其治一ふ七百貫目一ふ九々物小お海一な成

家屋後流乃を其の書載亦及すと扱親執乃くそそれ
 乃小勢分乃書付換一小三播乃里の快の方へま
 織乃算くつ一の棉拾ひいし練練乃首を糸の本乃織
 本枝をな者取其下市に修中の方へ三星小紋の布
 小小りの肩衣是ととるへ一云ちれば妹小花との布子
 小思に末襟乃かりしと河生平の惟子流くくしと
 魚一同地小病中一小おさる立橋乃袖園中掛子の平
 足袋一足是の縫りめくくしと魚一唐竹の梅後筒の
 箱れ中中い二多業師乃中林道伯と其見あり種漆の友
 羽織袖丸扇合とんぬ扇小継とあるは月日の仁なる
 へをいへ一お久おま代二る多るにそへ小並あひ一
 十歳整とて下らとせも又そへ小つひあして梓とて
 徳り多る書通かんぬうりの程りく何とせ聞くとは

小舟かく金船の身いさる女書付あててとれく飽
果もあつた親類も残らず使りしあつたゆと今
と酒で涙を流すは家と見限り我里く小舟りぬ
ふ七百貫目れ船一代乃始末して歸りぬ二つは
一づれいさく沢山よや舟若くあつた九助一生箱桶肌小
恙が舟中いひあつた改めしそれぬ廿二乃厄年小箱
乃下帯一帯しめて買まらぬわい色法もあつた
そまう小舟を船親仁乃力の迫りどくいおれ舟り乃外
さく最寄柄小胡桃乃目貫の相二海熟草換ひこの中志
小麻乃角の相付長門練の糸比乃下帯是あつた世も乃
具いとい色船りし九之助是と漢よりいひいさる
と肩に親類も代と色それく小舟もかきと色多と親
といあつた心ごとく人皆泣ひ出さしびり小舟と高貴

と舟りし小舟の時女武蔵丸兼里二王堂と云ふ小舟も
乃船子の隠家と云ふ人乃今まのつた家小舟も
つらと怒乃二乃とけ奈島本過程ひ色程あつた
なりと今乃船の和國りしと色引舟もせ小舟つた
やびりあつたと母親乃船はく十市乃里よりあつた船
びびりし小舟も乃美程とんぬれし目ぬれし中り色は
てと舟りぬと色ひとあり母も色終小舟りし一後美ん
と人もあつたあつたと推く年久あつた船も後ひと色
と色いさるりく色外小舟りし多されたは娘乃中小舟
ため小舟も三人あつた家結の氣もひあつた小舟りし
九之助酒場乃あつた小舟りし八九年乃うら小舟りし
お舟りしと色いさるり二十二年乃小舟りし甲斐那く
常盤のいさるり九之助色舟乃程の元徳とくあつた

ふこのめきりよま代をわのまりおれん人こおれん後
たふりしゆ金銀のり中へ納りてく水色の町
お海へ入るとお海流りぬ後を流しゆく
乃人そと感し先と申通しゆく
多社乃理れお銀子七百貫目つらひし
書連興と先く多系井筒を三師取小判式百
友のりあはしおれし今より入る像おれ
油とくごさくれの義理れかり金形り
成人乃後海流りてお海へ入る大波のり
乃お興の分の多ぬりし書あてあつ
海へ入る以外お興のり供二十貫目
五之師あしお海流りお海流り
おてお海へ入るお海流りお海流り

付四

おの塩籠乃油桶
是やあつておれあり海へ入る湯大の作
乃力おれおれとてわぬり乃要石高
いとれおれおれとておれ乃朝
おとておれおれとておれ乃耳
乃油とておれおれとておれ乃
後念川とておれおれとておれ乃
おれおれとておれおれとておれ乃
中く油とておれおれとておれ乃
之れ一代乃ららのおれおれ乃
乃何れとておれおれとておれ乃
百町おれおれとておれおれ乃

慈愍あつては人取乃賣と村乃京来とあひひたる始を
 修める毎背小僧とく乃乃燈細く乃乃未栳と形く美
 形と云及乃よりあく只修毛子新小力と云く
 支那法をより記時と云くぬの能習油と美るる境
 苑と修ひ又くれの油乃桶小整り表の書紙ゆりくる
 かよ高ひあれたより一都と後居とせと毎年肉徒
 よりくたりと二十余と小積三十七費定しある
 け男高賣小五付とけく二積と換と云く例あく
 年く小作澤と表これ左えと云く乃ゆあれを
 金子百両小たあゆ中くせりく漸百両小積と
 それより法事小束と云くありぬ法と男かみより人
 ありく何ふと思ひありし一戸より修らるれば人
 乃修りともと字及び長徳人乃ゆと徳一の修り月



あつこりけと添られぬに里小行くひこり新なる
おし男のさう添く葉葉乃乃唐と海とく技持と分
るに後い七八人もあつて物かすれと葉へんのか
世あれつれと色も物あつて里乃月日とかさね
森海権六といふ男とくくくくくくくくくくく
とこれとくくくくくくくくくくくくくくくく
人乃子た小や書乃素漢とくくくくくくくくく
新たあつといふ男の中しとくくくくくくくく
大なる金箱とくくくくくくくくくくくくく
くれに那本乃年挽籠乃ゆり物仕出でて時
く情小入いず乃ゆり町小老のくくくくくく
いし時小のくくくくくくくくくくくくくく
新小舞小気流移くくくくくくくくくくくく

程乃子男ひゆとくくくくくくくくくくく
さゆとられく大男舞生くくくくくくくく
と百を物いんてくくくくくくくくくくく
かくくくくくくくくくくくくくくくく
乃頭くくくくくくくくくくくくくくく
て也撲物とゆくくくくくくくくくくく
武勇も連年中我もくくくくくくくくく
勢りあつて浮世あれとくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
せよとくくくくくくくくくくくくくく
六の非四れ節毒播小くくくくくくくく
八十節新あるくくくくくくくくくく
と味線と報持とくくくくくくくくくく

て紙紙あてれ小る福集今小梅並おし一節曲好の甚公
又九節がま店小入くやうく只せそ抱へられ約の境
まそむほ小つるれれりそれ小の多義士殿とやあど
今た集のころそそふ小十数字とりを先知六百の
時小あひぬ又ほ生好ひの義た集の河より雲深の神
とありおれが染と大佛乃わたりして我とんやせあ
Pて色く福の乃のいと急皆知行と九一志の美
ぬ令あれかくありとるるもとあふ小梅と家業と外
小たして後集あくぬるるゆあられ是らと常とふ
お乃のそありぬあくと入小とられく義用といつる
その乃然ありとあ、お梅乃乃成士のりも断人の美
用とゆえに計りの通ぬわよ小ままめ小高を性付へ
と金乃を連人のあまこ乃まるとれPととこれる

中又

三のみり 暖乃かま

可年居乃わふとゆ一とありぬとわい一と代乃流然
生好小もかまのと付くおと金性乃好と好むる世
乃習いとわいぬとゆ小梅と今時乃仲人先教の
穿撃志と流とそと梅子の片梅とあいと好むる
ひり一と各別欲ゆへ人の好むいと替れり淵瀬小流
恋乃川上は久米乃更山さう世帯より年月流
長志とありあ他小かかれぬと記益合小立つて記く
あふぬ大分派新屋と云ふも二代小のりつる流乃
山新のは替らぬと流れと英志乃耳小入る小梅と
とたのやめと棟と世も並に九月小と年入の時仕立
と麻袴あして百十年はく礼義と勤めたる世の
深何流の時記たかまのと流英の七川里小紋小黒餅



乃有り若女乃二乃亦とまりて日毎小荷多程小門
 二向く慈小ほころび汁と慈小積ととる海くはる
 け家小任おれ金銀小傍まれ肉慈乃福小神おあま
 かりし時やうと愛是と慈乃高賣大神小代て
 智屋小かた付廣く入乃金銀かざりあく
 乃二二交首乃み慈小五積く二二記年
 乃慈人乃肉慈の張肉大晦日乃枕打おる海お積拂と
 と育一軟と紙の目より自由あり二二積と海に海
 情何くは兼用仕慈の七門乃種れ時つとあくらやん
 一みあておる多びと賣味込しは慈乃二二賣おる
 笑こく廣くろるれりるをぬく門と和く無原屋こい
 海つる人半慈持せとて小判を五百ある来年
 先程の利銀の因二女界の置板無銀と出るは慈
 代取る

